

# 牛久：学校周辺に見る自然

第54号 中根小，牛久二小，牛久二中他

2011年1月31日発行

## ＜冬の校庭観察～昆虫の冬越し その2＞

1/27(木)、昆虫の冬越し観察その2。今回はさなぎや成虫で冬越しする昆虫たち。授業の中ではあまり見られなかったもので、他で見られたものも加えます。

### ③ さなぎで冬越し



幼虫ようちゆうの間にもりもり食べ、冬が来る前にさなぎになって春を待つものもいます。写真はアオスジアゲハのさなぎですが、葉とそっくりでクスノキの葉の裏側にぶら下がっていました。きっと天敵てんてきの鳥にも見つかりにくいことでしょう。一般に冬のさなぎは茶色っぽい色をしたものが多く、枯葉や枯れ枝に似せているのだと思われます。

↑クスノキの葉の裏側にぶら下がったアオスジアゲハのさなぎ(稲敷市の宮内家にて)

### ④ 成虫で冬越し



↑落ち葉にまぎれるキチョウ(牛久二小)



↑秋のウラギンシジミ(牛久二中)

キチョウやウラギンシジミ、ホソミオツネトンボなどのように成虫のままじっと動かずにいるもの、コクワガタやコガタズメバチくちまきの女王のように朽木の中



↑枯れ枝のようなホソミオツネトンボ(つくば市)



↑春は青い色(牛久二中)

で冬を越すもの、ケラのように土の中で冬越しするものもいます。ウラギンシジミは目立つ所にもいますが、ほとんどの成虫は見つけにくい所にかくれています。ホソミオツネトンボは茶色くなったままピンと動かないので、枯れ枝のようにもみえますね。

### ⑤ おまけ (こんなのも見つけました)

左はウメの木につくられたスズバチの巣。スズメバチ科ですが成虫は花の蜜みつを吸い、手でつかんだりしなければ刺されることはないそうです。右はトックリバチうかの巣。羽化すると「トックリ」の入り口のふたを破って出てくるそうで、写真の大きな穴は何者か



かにあけられたのか、何か当たってこわれただけなのかは分かりません。

【理科支援員・宮内】